

JXエネルギーと東大先端研の共同研究拠点「ENEOSラボ」を拡充

JX日鉱日石エネルギー株式会社(社長:木村 康、以下「JXエネルギー」)は、東京大学駒場Ⅱキャンパス内の東京大学先端科学技術研究センター(所長:中野 義昭、以下「先端研」)との共同研究拠点「ENEOSラボ」を、新設された「環境エネルギー研究棟」(以下「研究棟」)に移設・拡充しましたのでお知らせいたします。

JXエネルギーと先端研との組織連携活動は、「エネルギーと環境が調和した社会の実現」をテーマに、2005年10月に開始いたしました。2008年4月には、この連携活動を強化し、JXエネルギーの研究員が常駐して共同研究を行う「ENEOSラボ」を設置、2009年2月に56号館に共同研究拠点を開所して研究を進めてまいりました。

このたび、先端研が2010年春より建設を行ってきました、新エネルギー技術の開発等を産学の強固な連携のもとに進めるための研究棟が竣工したことから、「ENEOSラボ」も、この研究棟に移設しました。

新しい「ENEOSラボ」は、床面積を従来に比べ倍増し、太陽電池をはじめとする、新エネルギーデバイスの材料開発や評価のための装置を増強いたしました。また、現在6名のJXエネルギーの常駐研究員も将来的には増員していく予定です。

「ENEOSラボ」では、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)から受託した「ポストシリコン高効率太陽電池」、最先端研究支援プロジェクト「低炭素社会に資する有機系太陽電池の開発」、「革新的蓄電材料」の共同研究を継続・推進することに加え、「水素エネルギー」、「機能性有機材料」に共同研究分野を拡大していく予定です。

JXエネルギーは今後も、「ENEOSラボ」を通じ低炭素社会実現に貢献する新エネルギーの革新的な基盤技術の創製とその成果の社会還元、人材の育成を目指してまいります。

(新)「ENEOSラボ」概要

- (1)所在地 : 東京大学駒場Ⅱキャンパス内 環境エネルギー研究棟 4～5階
- (2)面積 : 約1,000㎡
- (3)研究体制 : JXエネルギーの常勤研究員6名と先端研の複数の研究室との共同研究(2011年8月時点)

東京大学先端研「環境エネルギー棟」概要 ※2011年8月25日に竣工式を実施

- (1)所在地 東京大学駒場Ⅱキャンパス内 (東京都目黒区駒場4-6-1)
- (2)建築面積 1,580.55㎡
- (3)延床面積 7,123.94㎡
- (4)構造・階数 鉄筋コンクリート造・7階建て

以上



「環境エネルギー研究棟」竣工式 ―テープカット― (8月25日実施)

左から、新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事 和坂 貞雄、文部科学省 研究振興局 学術機関課長 澤川 和宏、東京大学 先端科学技術研究センター 所長 中野 義昭、東京大学 総長 濱田 純一、JX日鉱日石エネルギー 代表取締役社長 木村 康、経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進課 産業技術人材企画調整官 大家 利彦



「ENEOSラボ」が入居する「環境エネルギー棟」外観